

## 社会科学習指導案

令和7年9月26日(金)5校時

2年B組36名

指導者 大場 将公

1 単元名 日本の諸地域「中部地方」(内容のまとめりC 日本の様々な地域(3)日本の諸地域)

## 2 単元設定の理由

## (1)教材について

- ・「日本の諸地域」は、「自然環境」「人口や都市・村落」「産業」「交通や通信」「その他」を中核とした5つの考察の仕方を基にして、主題を設けて、課題を追究したり、解決したりする活動を通して、資質・能力を育成する単元である。中部地方は、地域によって異なる自然環境や様々な気候が影響し、諸産業への発展へとつながっている地域である。日本最大の工業地帯である中京工業地帯や世界ナンバーワンの自動車企業でもある「TOYOTA」社だけでなく、多くのナンバーワン産業や産物があることから、「産業」を中核とした考察に取り組むことに適した単元である。
- ・産業を中核とした考察の仕方については、地域の農業や工業などの産業に関する特色ある事象を中核として、それをそこでの自然環境や交通・通信などに関する事象と関連付け、自然環境や交通・通信などと深く関係をもっていることや、産業の振興と環境保全の両立などの持続可能な社会づくりが地域の課題となることなどについて考察することが考えられる。中部地方では、空間的相互依存作用や自然環境に着目して、地域的特色や地域の結び付きを理解し、それが様々な事象と結びつき、影響を及ぼし合っていることを通して、知識を概念的につなげることを単元のねらいとする。
- ・中部地方では、三つの地域それぞれが異なる地理的特徴や気候、風土を備えており、そこで暮らす人々は様々な工夫や活用方法により産業を発展させ、ナンバーワンとなっている産業が多いのが特徴である。そうしたことから、この要因を探っていく課題を設定し、自他と探究する活動を通して、社会的事象を産業との関連から捉え、多面的・多角的に考察し、表現する力を養うことに効果的な単元である。

## (2)学習者について

- ・教科アンケート(7月)では、「社会科の授業が好き」90%「社会科の授業がわかる」88%であり、社会科の授業についての関心は概ね高く、意欲的に取り組むことができている。しかし、「地理の学習が好き」については67%という結果から、地理的分野については苦手意識があることがうかがえる。
- ・教科アンケート(7月)では、「地図や資料を読み取ったことを適切にまとめることができる」が65%、「自分の考えや思いをはっきりと表現できる」は50%であり、資料を活用したり、表現したりする能力に課題がある。
- ・上記の状況から、九州地方の学習では、マングラチャートで着目する点を絞り、RESASやe-Stat等で情報収集を行い、対話型論証モデルを用いて自分の主張を表現するようにした。しかし、他者からの情報や考えを自分の中に落とし込み、考えを深めたり、広げたりするまでには至っていない学習者が多く見られた。

## (3)指導について

- ・単元を貫く課題(作成および発表)を設定することで、学習者が主体的に地理学習に取り組めるようにするとともに、他の地方と中部地方を比較・分析し、地域的特色や課題を理解するように指導する。
- ・産業を、空間的相互依存作用や自然環境との関係などに着目させ、他の事象と結びつけ、影響を及ぼし合っていることに関連付けて単元のまとめを作成させていく。また、産業に焦点化した視点をおき、RESASやe-Stat等で必要な情報を収集し、それらを分析し、読み取り、まとめる技能を身に付けるようにする。
- ・自分が考えたものを、小集団や学級全体で表現することに加え、他者の見方や考え方に着目し、多面的・多角的な視点を養い、単元のまとめにおいて、自分の考えが深まったり、広がったりするを感じられるよう指導する。また、様々な考えを受容するために、ワークシートや付箋などを用いて、学びを蓄積させ、まとめや振り返りに自他の考えが反映されるようにする。

# 単元プランシート(社会科2年)

実施時期 9月

## 単元指導計画(内容のまとめりC 日本の様々な地域(3)日本の諸地域)

1(4時間) 九州地方	2(4時間) 中国・四国地方	3(6時間) 中部地方	4(4時間) 近畿地方	5(5時間) 関東地方	6(4時間) 東北地方	7(4時間) 北海道地方
自然環境 【○知・技】 【○思・判・表】 【○主学態】	人口や都市・村落 【○知・技】 【●思・判・表】 【●主学態】	産業 【○知・技】 【○思・判・表】 【○主学態】	人口や都市・村落 【●知・技】 【○思・判・表】 【○主学態】	交通・通信 【○知・技】 【●思・判・表】 【●主学態】	生活・文化 【●知・技】 【○思・判・表】 【●主学態】	自然環境 【○知・技】 【○思・判・表】 【○主学態】

単元名	第3章 4節 中部地方 ～活発な産業を支える人々の暮らし～	
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>中部地方に関する様々な資料を活用しながら、産業の発展を主眼に置き、中部地方の地域的特色と産業の関連を理解できるようにする。</li> <li>中部地方にナンバーワンの産業が多いことについて、産業と自然環境や社会環境など空間的相互依存作用に着目し、多面的・多角的に考察し、産業が発展した要因や中部地方を担っていく産業について表現できるようにする。</li> <li>中部地方の産業に関する関心を高め、自然環境や社会環境が産業に与える影響を粘り強く考え、中部地方や日本全体の産業振興について追究する態度を養う。</li> </ul>	
評価 規 準	知・技	<ul style="list-style-type: none"> <li>①中部地方について、東海地方、中央高地、北陸地方でみられる産業の特徴やその地域に産業が根付き、ナンバーワンになっている要因を理解している。</li> <li>②中部地方に関して、調査や様々な資料から、考えの根拠となる地理的な情報を調べ、効果的にまとめている。</li> </ul>
	思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> <li>①中部地方の産業の特色について、必要な資料を選択し、それを分析し、地形や位置、気候や交通などの事象と関連付けている。</li> <li>②中部地方において、「NEXT TOYOTA」として売り込みたいものを、地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、特色ある自然環境や諸産業の様子などと有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>
	主体	①中部地方について、よりよい社会の実現や更なる地域発展につながるよう、見通しをもって学習に取り組み、自らの学習を振り返りながら、粘り強く、主体的に課題を追究しようとしている。

### 単元を貫く課題「なぜ、中部地方にはナンバーワン産業が多いのだろうか?～売り込め!NEXT TOYOTA!!～」

時間	学習内容	評価計画(●形成的評価・○総括的評価)		
		知・技	思・判・表	主体
1	<b>【概要をつかむ】【仮説を立てる】</b> ・中部地方を構成する都道府県の位置や気候、地形の特色などを読み取る。 ・中部地方の地域的特色をつかみ、単元を貫く課題に対する仮説を立てる。	<b>②</b> (ワークシート) (行動観察)		<b>①</b> (リフレクションシート)
2	<b>【情報収集】</b> ・中部地方の産業について、調べ、自分が売り込みたいと考えるナンバーワン産業を抽出する。 ・抽出したナンバーワン産業に関する資料(裏付けや根拠となりうるもの)を収集する。	<b>②</b> (ワークシート) (行動観察)		

3	<b>【モデリング】</b> ・抽出した産業がナンバーワンになった要因を、前時に収集した資料やデータをもとに対話型論証モデルにまとめ、自分の考えをスライドに反映する。	<b>①</b> (スライド) (行動観察)	<b>①</b> (スライド) (行動観察)	
4	<b>【課題追究】</b> ・抽出した産業の売り込めるポイントを多面的・多角的にまとめ、スライドを完成させ、次回の発表に向けた準備を行う。	<b>②</b> (スライド) (行動観察)	<b>②</b> (スライド) (ワークシート)	
5 [本時]	<b>【パフォーマンスと思考の再構築】</b> ・中部地方の産業にナンバーワンが多い要因について、自分が調べていない地域や産業をグループで共有し、自分のスライドで考えを伝える。 ・新たな見方をもとにして、単元のまとめに向けて自分の考えを再構築する。		<b>②</b> (ワークシート)	<b>①</b> (リフレクションシート)
6	<b>【単元のまとめ】</b> ・なぜ、中部地方にナンバーワンが多いのかをまとめ、NEXT TOYOTA として売り込むものについて論理的に表現する。	<b>①</b> (ワークシート) (スライド)	<b>①・②</b> (ワークシート) (スライド)	<b>①</b> (リフレクションシート)

評価基準(単元まとめスライドにおける思考・判断・表現について)	
B	A
中部地方にナンバーワン産業が多い理由を、多面的・多角的に考察し、自他の意見を比較した上で、データや資料を活用し、売り込みたいものを表現することが出来ている。	中部地方にナンバーワン産業が多い理由を、多面的・多角的に考察し、自他の意見を比較した上で、整合性のあるデータや資料を活用し、売り込みたいものを表現することが出来ている。

様式3 本時の指導

(1) 本時の位置づけ( 5 / 6 )

(2) 題材 中部地方にナンバーワンが多い要因とは!?

(3) 本時のねらい 中部地方の地域的特色や地理的特徴について、自分で作成したスライドを用い、その産業が発展した要因を伝え合い、意見交換し合う学習を通して、他者の考えを取り入れながら、多面的・多角的な視点で自らの考えを再構築することができるようにする。

(4) 展開

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点	備考
5	1 本時のめあてを確認し、見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時までの活動を振り返り、本時のめあてと本時と単元まとめへの流れ(見通し)を提示する。</li> <li>・グループで話を聞いて、様々な見方・考え方を取り入れ、考えを再構築することを意識させる。</li> </ul>	
<div style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【本時のめあて】 中部地方にナンバーワンが多い要因を探り、自分の考えを組み立て直そう。</p> </div>			
20	<p>2 同じ地域を調べた人1名と自分の班にいる他の地域を調べた2名と作成したスライドを発表する。 (4分×5回)</p> <p>☆2分:発表 ☆2分:意見交換</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分が作成したスライドを説明したり、他の人のスライド資料を聴き、情報を共有したりする活動を行う。</li> <li>○<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分に無かった見方=良かった点(黄付箋)</span>と<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">加えるとよい見方=改善する点(青付箋)</span>を記入してもらい、再構築する際の材料とする。</li> <li>○発表の際に、共通点として挙げられることや自分が調べ切れていなかった新たな見方などとして書いてもらった付箋をワークシートに貼り、新たな見方を可視化できるようにする。</li> <li>○ナンバーワンになれた要因を、気候や地形、地理的な位置や空間的なつながりなど、様々なことにつなげさせ、多面的に捉えられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見方に着目して、自分と班員の共通点や違いを付箋に端的にまとめるようにする。</li> </ul>
20	3 自分以外の発表や全体交流をもとに、自分の考えを再構築するための準備をワークシートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新たに出てきた見方や考え方を全体交流しまとめる。</li> <li>○ワークシートに蓄積した付箋(他の人の見方や考え)を基にして、必要なものを精査し、ワークシートにまとめていく。 【ワークシートに新たな見方や必要なものが何かを表現】</li> <li>○必要なデータや資料を RESAS や e-Stat で収集し、スライドをより根拠のある主張にするために再構築する準備をする。</li> </ul>	<p>【評価】思②</p> <p>新たに得た見方・考え方をもとに多面的多角的に考え、再構築するための準備が出来ているか。 (ワークシート)</p>
5	4 振り返りを行い、単元のまとめの構想をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リフレクションシート(1枚ポートフォリオ)に振り返りを記入させ、単元のまとめに向けた構想を練らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分が得た新たな見方や考え方を残せるようにしておく。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>振り返り：自分では、気候や地理的位置がナンバーワンになれた要因だと考えていたが、地形やそこの文化や生活も要因に含まれることがわかったので、自分のスライドにも新しく加えることができた。</p> </div>			

(5) 努力を要する学習者への配慮

【努力を要する状況(C)に対する手立て】

- ・意見交換や考えを再構築する際に困りを抱えている学習者に対して、まな View マンダラチャートや付箋を使用し、課題を追究するための見方や活用できるものを精選できるようにする。
- ・情報収集に困りを抱えている学習者に対して、RESAS や e-Stat を活用させ、自分が必要とするデータを分野やジャンルから選び出し、関連付けられるようにする。

(6) 学習記録計画

第3章 日本の諸地域 4節 中部地方 (5/6 時間)

見方や考え方の整理

単元を貫く課題

なぜ、中部地方にはナンバーワン産業が多いのだろうか？

～売り込め!NEXT TOYOTA!!～

めあて 中部地方にナンバーワンが多い要因を探り、  
自分の考えを組み立て直そう。

活動のながれについてはモニター表示

- ①隣りの同地域の人と発表(発表2分・意見交換2分) 8分
- ②3人1組で発表を行う(発表2分・意見交換2分) 12分
- ③良かった点と改善する点を付箋に書いていく。
- ④ワークシートに他の人から得た付箋を貼る。
- ⑤自分の考えを再構築する準備をワークシートに記入。

- ・【自然環境】: 気候(気温や降水量)・地形の多様さ
- ・【人口】: 名古屋大都市圏・東京や大阪に近い
- ・【歴史】: 産業の疎開地・積極的な土地の改良
- ・【交通】: 大きな海が近い・高速道路網の整備
- ・【生活・文化】: 冬の農業× → 地場産業や伝統産業

班員や同地域の人から得た助言をもとに  
ワークシートに再構築する準備をしよう!

振り返り

ナンバーワンになれた要因を追究していくには・・・  
「気候」・「地形」・「地理的位置」・「生活文化」  
に注目していく必要がある。